

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	親子のためのクラシックコンサート 音楽の絵本			
目的・内容	親と子が文化芸術に親しむことができる鑑賞機会の提供を目的に実施。親子で楽しめるクラシックコンサートが少ない本県において、本物の演奏と楽しいパフォーマンスで見どころ満載のコンサートを親子で鑑賞することで、将来の鳥取県の音楽愛好者や実践者の拡大を図る。 [出演] ズーラシアンプラス(6名)、弦うさぎ(4名)、指揮(1名)、特別キャラクター(1名)、司会(1名) [アフター事業] みらいアトリウム劇場 vol.11 ひと足はやいクリスマス☆ミニ・コンサート&ヴァイオリンワークショップ 11/23 倉吉未来中心リハーサル室 (来場者83名)			
開催日時	平成25年10月20日(日) 開演13:30			
会場	倉吉未来中心 大ホール			
入場料 (友の会・団体)	おとな 2,500円 (2,000円)	中高校生 1,000円	4歳～小学生 500円	
集客状況	入場者数 1,431名	設定席数 1,497席	集客率 96%	
事業費状況	予算額	収入 1,650,000円	支出 2,736,000円	収支比率 60%
	決算額	収入 2,589,000円	支出 2,395,387円	収支比率 108%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 299名	回収率21%、満足度83%、新規顧客獲得率31% ・子どもが自分から行きたいと言ったので、以前の公演が心に残ったんだと思います。この気持ちを大切に育ててやりたいです。(湯梨浜町・30歳代・女性) ・私も吹奏楽に入っていて、迫力がありすごかったです。トランペットのソロもすごかったです。一つ一つの音を大切にしています。良かった。良い演奏をありがとうございました。(琴浦町・10歳代・女性) ・家族で「音楽の絵本」の大ファンで、今回3回目の参加です。毎回とても楽しみにしていて、今回も大満足でした！ぜひ、また鳥取に来てください。(鳥取市・30歳代・女性) ・高いレベルの音楽を親子で、しかも倉吉で聴けてとてもうれしかったです。子どもが身近に音楽を感じてもらえて良かったです。またぜひ倉吉で！(倉吉市・40歳代・男性)			
1次評価 (内部)	[成果] ・来場者目標(1,050名)を超える多くの方に来場いただくことができた。ひざ上鑑賞の幼児を含めるとほぼ満員の会場となった。中部地区の親子に対するニーズを捉えた事業選択(親子向けの本格的なコンサート)と未就学児の入場が可能であることを効果的に広報できたため成果に繋がった。 ・新規鑑賞者は31%、リピーター(2回以上)37%と新規鑑賞者とリピーターをバランス良く獲得している。リピーター割引のDMを過去鑑賞者に送ったことも結果に繋がったのではないかと。また、アンケートの感想から『音楽の絵本』ファンも多くあると感じられ、非常に人気のある公演であることを認識した。 [課題等] ・アンケートに入場時の混雑に関する意見があった。満席にほぼ近い入場者の入場整理、誘導に対応する対策が不十分であった。入場口(もぎり)は通常より多く設置していたが、開場前に行ったファンファーレの時間調整や列の最後尾を明確にするなども必要であった。 ・プログラムに親子向けの鑑賞マナーを掲載していたが徹底は難しく、アンケートにはマナーの悪さを指摘する意見もあった。 ・アフター事業は、来場者の満足度は高く、よい機会になったという声やアンケートの感想も多いが、本公演鑑賞者のリピーター率が低い。			
2次評価 (財団評議員)	[量的成果] ・県中部以外からの参加者も多く、幅広い年代の観客を集められたという点では良かったと思う。 [質的成果] ・数的には、目標通りの成果が得られたのではないかと。 [課題等] ・アンケートにも多数あったように、赤ちゃんの泣き声(泣き止まないのに退席しない)、親(大人)の会話等、子どもと楽しむためのコンサートとはいえ、マナーの悪さが大変気になった。ホール内のスタッフも全く声をかけるようすもなく、残念に思った。クラシックの入り口としての位置づけであったと思うが、今後は、顧客を育てるという意識をもって取り組むことが大切だと考える。 ・演奏に関しては大いに不満。出演者数も限られており、ホールの大きさとマッチしていたとは思えない。特に印象に残ったのは、最も盛り上がったのが動物たちが客席に出てきたときだったこと。子供はもとより、観客の多くが、演奏に喜んでいては、着ぐるみ(キャラクター)に喜んでるのだなと感じた。 ・入場口の混雑への対応については大きな問題があったと思う。事故がなくて良かったが、一歩間違えばエスカレーターでの事故につながったと思う。			
今後の対応、 取組状況	・親子向け企画では、多くの方が子供には何らかの教育を考えると考える傾向があり、そのあたりのニーズにマッチしたのではと思われる。大切なことは、観客のニーズを的確に把握することであり、今後もそのあたりの検討を重ねる必要がある。 ・最近では、親子で一緒に見ることが出来るドラマなども少なくなっているとのデータがあり、逆に親子で楽しむ公演は、それだけ需要があると考えられる。財団としてもそのあたりを含んだ公演の実施の必要性を感じた。 ・親子向け公演では特に、観客にマナーを強制するのではなくリラックスして公演を共有できるような環境づくりに配慮したい。 ・親子が楽しめる舞台は継続的に提供していきたい。地域(市町村)との役割分担を考えながら、財団として提供すべき企画事業の選定が重要であろう。			